

# 2021年度 西淀川インターナショナルコミュニティー活動報告書

2022年5月16日

## 目次

1. 団体概要 .....	1
2. 2021年度活動実績 .....	2
(1) 学習支援教室 .....	2
① 学習支援教室「きらきら」 .....	2
② Tabunka Juku “Animo” (たぶんかじゅく「アニモ」) .....	3
(2) 「たぶんか相談会」 .....	5
① 定例相談会 .....	5
② 外国人住民向け新型コロナワクチン情報サイト .....	7
③ 特別相談会 .....	8
(3) 地域の交流行事 .....	8
3. その他 見学・取材・講演・連携団体等 .....	9

## 1. 団体概要

西淀川インターナショナルコミュニティー (Nishiyodogawa International Community、通称 NIC) は、大阪市西淀川区に暮らす外国人住民、特に外国にルーツをもつ子どもへの育成支援を、外国人と日本人が協働して取り組むボランティア団体。

- 外国につながる子どもの学習支援教室
- 外国人住民向け生活相談会の開催
- 地域交流イベント開催

を実施している。詳細は以下を参照。

URL: <https://nishiyodoic.net>

facebook: <https://www.facebook.com/Nishiyodogawa.IC>



西淀川インターナショナルコミュニティー  
Comunidad internacional de Nishiyodogawa

## 2. 2021 年度活動実績

### (1) 学習支援教室

前年度に続くコロナ禍において、特に 2021 年 12 月以降のオミクロン株による子どもへの急激な感染増で活動に大きな影響を被った。緊急事態宣言、まんえん防止措置により、借用している会場が閉鎖となり、前年度に引き続き活動休止や、オンラインによる対応となった。

支援者においては一定数の参加が得られており、前年度に続き、ボランティア・講師・事務局間で情報交換・課題共有の機会を持ち、日頃の支援活動に活かすことができた。

西淀川区役所、出来島地域の小・中学校、淀中学校学校元気アップ協議会、大阪市教育委員会人権・国際理解 G 第一共生支援拠点「らんまん」、西淀川子どもネット、等との連携が得られ、子ども支援の原動力となる組織的な連携が得られた。

#### ① 学習支援教室「きらきら」

- 外国にルーツを持つ小学生対象の居場所と学習支援の場
- 41 回開催、のべ 262 名の小学生参加、登録 18 名（2022 年 3 月末現在）  
（ペルー、ブラジル、フィリピン、スリランカ、ネパール、パキスタン ルーツ）
- 大阪市ボランティア活動振興基金、大阪市こどもの見守り強化事業補助金を基に運営

2021 年度に引き続き、毎週月曜日 16:00～17:10 に活動を実施した。基本的には、検温や消毒、換気等の感染対策を行ったうえで、ゆうせいホールにおいて対面による支援活動を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、臨時的にオンラインでの活動を余儀なくされることもあった。



きらきら 学習風景

教室での活動においては、コーディネーターを中心とする支援スタッフと共に漢字や算数のドリル、プリント等学校の宿題をすませた後、教室で準備している教材やタブレット端末、カード等を使って個別に予習や復習に取り組んだ。季節のイベントに合わせて飾りつけをつくる時間を設けたり、低学年児童は折り紙やお絵描き、かるた等のゲームをしたりして楽しむ場面も見られ、居場所としての機能を果たした。

オンラインの場合は、Zoom と Messenger を使って活動を実施した。教室での支援と比較して制約はあるものの、少しでもコミュニケーションをとる機会を確保し、手探りながらも居場所としての機能を維持することができた。また、オンラインによる支援の実施にあたり、SNS で保護者とつながり、連絡を強化することができたという面もある。一方で、オンライ

ンでは相手の理解度・状況の把握や教材の共有が難しい、上手く接続できない子どもが一定数いる等の課題は残る。そのため、できる限り対面での活動の可能性を探るとともに、オンラインでの活動となった場合にもスムーズに対応ができるよう、子どもとの接続確認や支援者間でのスキルの共有を行う必要があるといえる。

参加した子どもたちは、日本滞在年数にばらつきがあり、日本生まれの子どもには教科学習の伴走と日本語の基礎力確認が必要であり、来日間もない子どもには、はじめての日本語学習を考慮しながらの対応が必要であった。また、前日の連絡や学校へのお迎えをしているものの、参加する子どもの人数が不安定であり、今後も参加を促すための工夫が求められる。

支援者は、スペイン語、英語等での会話力のあるメンバーもおり、子どもや保護者とのコミュニケーションをとるには一定の安定感がある。ボランティアの方々は小学校教育や日本語教育の専門家ではないが、西淀川区の防災かるたやしりとり、なぞなぞ等を通して楽しく学べる工夫と熱心に子ども一人一人に寄り添っていく姿が見られた。より子どものニーズに合う対応方法を探り活動に活かす目的で、夏休み期間中と年度末に支援者ミーティングを実施して子どもについての情報共有を行ったが、その成果が表れているといえる。

地域や家庭とのつながりについては、昨年同様、西淀川区役所や小学校との連携により、特に支援が必要な子どもについて、学校、家庭、支援教室それぞれで見守りを行い、適宜情報を共有することができた。小学校の先生がたが教室の様子を見に来られるのに加え、支援者が学校に参加児童を迎えに行ったり、学校に赴いて先生と情報共有する機会を持ったり、学校とのコミュニケーションも増加した。また、「たぶんか相談タイム」や子どもの送り迎えに訪れる保護者に学習の様子や教材を提示する等してコミュニケーションをとり、家庭とも情報共有ができた。さらに、2021年度は「西淀川こどもネット」とのつながりから、ノート、文具等の教材や食料を提供していただくことが増え、子どもの学習に限らず生活面での支援を地域の他の支援団体と連携して行うことにつながった。

## ② Tabunka Juku “Animo” (たぶんかじゅく「アニモ」)

- 外国につながる中学生等の居場所の提供と学習支援と、高校進学への理解を深める進路情報を提供
- 実施回数：57回
- 出席者数：生徒206名(のべ人数) 支援者299名(のべ人数)
- 生徒登録数：12名(ペルー、フィリピン、パキスタン、ネパール、スリランカ ルーツ)
- 大阪市塾代助成事業を活用し、保護者の経費負担を無くして運営

学校が一斉に休校となった2020年度のオンライン支援は、まずつながること、声掛けをし、交流することが必要であった。それに比べ2021年度は、学級閉鎖等の措置となり一斉休校とはならなかった。そのため声掛けから学習支援に活動基点を置いた。

まんえん防止措置期間で通常お借りしている場所が使用不可能となり会場確保に努力した。まず、中学校内の大阪市第一共生支援拠点「らんまん」との連携でプレクラス教室の借用を試みた。が、結果として通常の会場の代替となることは困難であった。帰国・来日間もない生徒は比較的参加するが、日本生まれなど滞日年数の長い子は、部活動参加などで不参加、と学習の場への参加が不安定であった。

やむなくオンラインでの取り組みに切り替えたが、参加者数は少なく、接続方法、オンライン学習での支援のスキルアップ等の基本的な課題が残った。この間、気になる生徒には家庭訪問を実施し、健康観察と学習の様子などの聞き取りを行った。

学習内容は、英語・数学・日本語を中心に教室のテキストからの学習をメインにしながら、提出期限の迫った学校の宿題、定期テスト対応の学習等に適宜対応した。中には、一つ一つ丁寧に理解していくには時間不足で、とにかく解答を写すことでその場をやり過ごすケースも見られ解決が迫られる。

高校受験に関しては、例年のように11月頃から新規入塾生があり、教室での対面学習に加えて、コロナ禍も配慮してオンライン数学の体制を取り、週に2～3回集中して学習支援を行った。高校入試合格という明確な目標に指導計画に沿った支援が効果的であった。

受験生は、中学3年生6名のうち、大阪府公立高校特別選抜の日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒選抜実施校に2名、一般選抜実施校に1名、私立高校専願入試に2名合格し進学した。このように年々、高校の進学先も私立併願・専願、公立特別選抜・一般選抜実施校にと進学先の種類が広がり、人数も増加している。一方で、学校と疎遠になり受験しなかった子どももいるため今後も地域団体として見守りの継続が必要なことを痛感している。

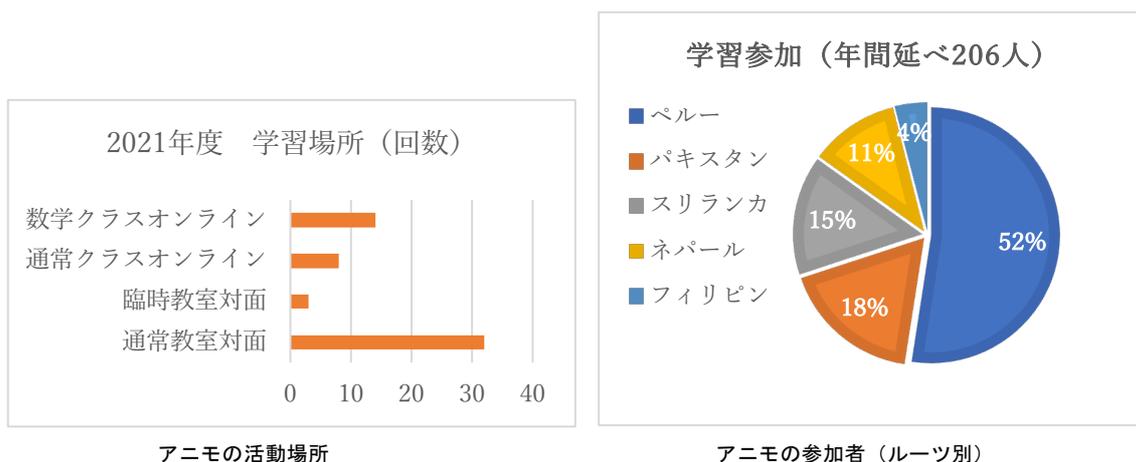
学習支援の記録についてはデータベース kintone を使用して指導内容、理解状況、引継ぎ事項等を支援者間で情報共有し毎回の指導に活かすことができた。

昨年同様、日本語による大阪市塾代助成カード申請・更新の手続きについて、特に4～5月、9～10月に必要なサポートを行った。

イスラム教の約1か月間のラマダン時の学習時間帯を通常より早めること、ラマダン時

以外に時々行う食品提供でのハラール食品かどうかの確認等の体験を通して、支援者間で宗教上の文化習慣についての理解を共有し深めることができ多文化性が広がった。

対面での活動可能な日は、一貫して消毒、検温、換気、マスク着用に注意し、ソーシャルディスタンスを保つため広いスペースの借用を行った。また、2021年度に子どもの見守り強化事業により購入できたアクリル板パーテーションを活用した。



参考：たぶんかじゅくの経緯

2015年、「きらきら」活動開始。当時の子どもたちの保護者からの強い要望で、2017年9月から（特活）多文化共生センター大阪（当時）が「たぶんかじゅく Huku」を実施。保護者の熱意と協力に支えられブラジルレストラン（当時）を借用し、ブラジル・ペルールーツの中1・中2、計4名から開講。2018年4月以降、毎週月曜日 Tabunka Juku “Animo”（たぶんかじゅく「アニモ」）として、**外国につながる子どもの高校進学を応援する活動**を継続中。

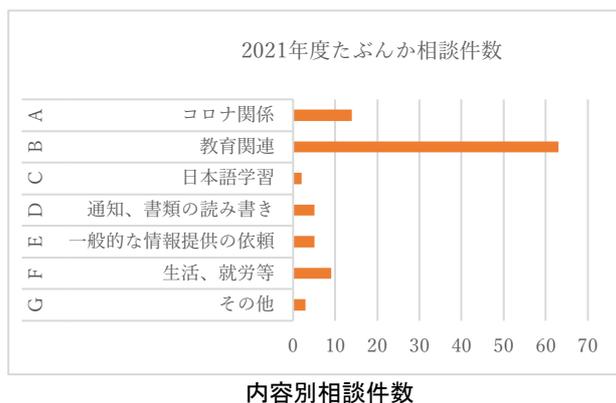
## （2）「たぶんか相談会」

### ① 定例相談会

- 相談件数：101件
- 実施時期と場所：毎週月曜日 15:00～16:00 ゆうせいホール
- 実施対象：きらきら、アニモの保護者を中心、一部保護者からの紹介者も含む
- 担当者：地域に在住のスペイン語・ポルトガル語話者とNICスタッフ
- 対応言語：ポルトガル語・スペイン語・日本語

相談内容の内訳：

A	コロナ関連	14 件
B	教育関連	63 件
C	日本語の勉強をしたい	2 件
D	通知、書類の読み書き	5 件
E	一般的な情報提供依頼	5 件
F	生活、就労等	9 件
G	その他	3 件



コロナ禍で定例の毎週月曜日 3 時～4 時の相談対応は、たびたび休止となった。が、相談自体がなくなったわけではないため、約 60%の相談は電話や SNS を介してあるいは家庭に訪問してのものとなった。

なかでも、コロナ関連の相談では切実なものが見られた。

例：小さな子どもを抱えた一家からの感染時の声

「watashi no mondai wa tabemuno ga nai kaimuno mo dekinai」

これは、2022 年 2 月某日の早朝に届いたメッセージである。感染者急増で行政からの食材配布等が間に合わない状況のため、弁当などの提供を行ったが、このように簡単に孤立してしまう外国人家庭の現実が眼前にあった。

2021 年 8 月より西淀川区内のこどもの居場所、子ども食堂、学習支援、こどもお笑い道場等多彩な活動をしている「西淀川こどもネット」に参加することになった。毎月の活動状況の共有と、活動に参加する子どもへの食材提供等があり今後の相談対応への強力な連携先となっている。

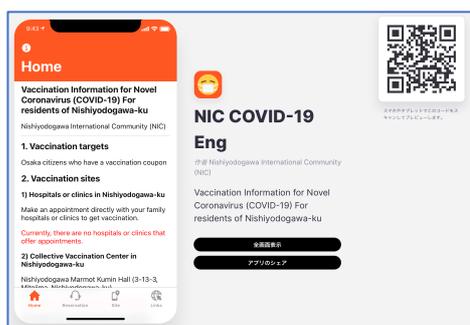
医療関係において、2022 年 1 月淀川勤労者協議会による西淀川勤労者厚生協会初任者研修に講師として参加でき、外国につながる人々について関心を高めることができた。また、フードバンクの情報提供を受けることもできた。3 月には社会医療法人愛仁会千船病院で情報交換の場を持つことができ、外国につながる人々について翻訳による言語支援の必要性他の話し合いを持つことができ今後の相談連携が考えられる。

今後も気軽に子ども、就労、健康などについて悩みや情報を母語で話せる場の継続と紹介できる関係機関との連携を深めていきたい。

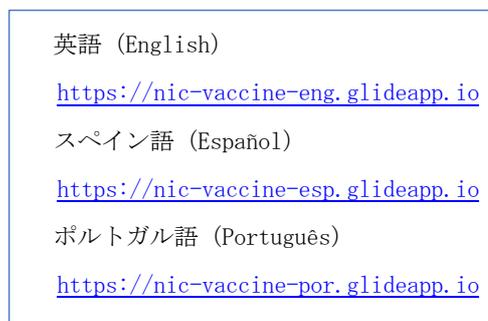
## ② 外国人住民向け新型コロナワクチン情報サイト

2021年6月頃から大阪市ではワクチン接種券の送付が高齢者等の限定なく一般の住民に対して始まり、外国人住民にも届くようになった。ワクチン接種を希望する外国人は多く存在しているが、接種券や付随する説明書は全て日本語のため、日本語がわかる地域の外国人キーパーソンへの相談が集中し、一度に対応できない状態となった。また7月頃からワクチン自体の不足に伴い接種できる数が限られ、非常に予約が取りにくい状況となった。

スマートフォンのWebサイトで予約開始日を告知し、多言語予約窓口へ直接電話できる機能を持たせる方式を企画し、一般財団法人ダイバーシティ研究所に開発を依頼し、英語、スペイン語、ポルトガル語によるワクチン接種の多言語情報提供サイト開設を行った。NICのWebサイトやSNS等を通じて広報を行い、接種予約開始日の発表ごとに内容を更新した(2021年8～9月)。



ワクチン情報サイト英語版



ワクチン情報サイト URL

### ※参考 上記相談会およびワクチン情報サイト詳細

三菱財団×中央募金会「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」

大阪市西淀川区の外国人住民のための生活相談事業」報告書

[https://nishiyodoic.net/consultation\\_pj2021\\_report\\_info/](https://nishiyodoic.net/consultation_pj2021_report_info/)

### ※参考 日本語学習支援記録

(2020年度相談において約20パーセントの希望があり、地域の識字・日本語教室

もコロナ禍で学習活動継続が難しい事情から2021年度末までオンラインで実施したもの)

オンラインによる日本語学習支援記録 (2021年5月～9月)

<https://nishiyodoic.net/dl/online-japanese-class-report2021.pdf>

オンラインによる日本語学習支援記録 (2021年9月～2022年3月)

<https://nishiyodoic.net/dl/online-japanese-class-report2022.pdf>

### ③ 特別相談会

#### たぶんか進学セミナー2021

- 参加者：53名
- 外国につながる中学生とその保護者、小学生とその保護者（ペルー、フィリピン、イラン、インド、ネパール、スリランカ、ベトナム、中国、日本 ルーツ）、大阪府教育庁高等学校課学事グループ、大阪市教育委員会指導部、指導部派遣通訳者等の参加が得られた
- 実施日：2021年10月24日（日）13～16時
- 場所：大阪市立淀中学校 多目的室
- 主催：多文化高校進学セミナー2021 実行委員会  
大阪市立淀中学校  
西淀川区役所  
淀中学校区学校元気アップ協議会  
大阪市教育委員会指導部人権・国際理解教育G 第一共生支援拠点「らんまん」  
西淀川インターナショナルコミュニティー（事務局）



たぶんか進学セミナー 開催風景

大阪市で毎年2回行われる多文化進路ガイダンスが、コロナ禍で1回に縮小され、その1回もオンライン実施のため多言語による進路情報を対面で得る機会が無くなった。また、西淀川区の特徴として、日本で生まれ、日本滞在が長い、あるいは母国と日本を何度か移動している外国につながる子どもたちが多くみられる。

子どもたちの多くは日本語による日常会話はこなしているが学習用語の理解が不十分であったり、保護者に日本の学校制度の知識が伴わない場合が多いため、小学生から中学生の外国につながる子どもとその保護者対象に、実行委員会体制で情報提供した。アンケートでは好評と継続を願う声を得られた。今後も、近い将来の夢につながる進路選択に役立つように、多言語による情報を継続し伝え、先輩当事者となる若者を育てていきたい。

#### ※ 参考

「たぶんか高校進学セミナー2021」実施記録

<https://nishiyodoic.net/dl/ShingakuSeminar2021report.pdf>

なお、昨年引き続き、健康相談会、法律相談会はコロナ禍のため開催できなかった。

#### (3) 地域の交流行事

昨年引き続きコロナ禍のため開催されなかった。

### 3. その他 見学・取材・講演・連携団体等

- 4/5 学習支援教室「きらきら」「アニモ」見学・奈良国際大学講師  
オチャンテ カルロス ムライさんと学生さん
- 3/28 学習支援教室「きらきら」見学・大阪市立大学文学研究科,  
文化構想学専攻文化資源学専修教授 小田中 章浩さん

#### ◇アンケート協力

- 5/1 社会的孤立防止対策本部による調査・公明党（メールで）
- 12/6 外国につながるのある子どもの健康支援  
神戸大学大学院保健学科パブリックヘルス国際保健の研究員 田中祐子さん

#### ◇インタビュー

- 9/1 外国人労働者に対する民間団体の支援についての調査  
東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻, 田村まりさん（オンライン）
- 11/15 取材・市民記者, 中尾卓司さん →大阪市民活動ポータルサイトに掲載  
外国につながる子どもたちを取り巻く課題を知ろう！  
<https://kyodo-portal.city.osaka.jp/task/24000013362/>
- 11/22 研究計画名：「夢プロジェクト」に関するインタビュー  
立命館大学産業社会学部講師 山田文乃さん
- 12/21 探求学習インタビュー「日本語理解のサポート  
ー日本語が分からない在日外国人児童に小学校入学前にできる  
サポーター」  
大阪教育大学附属高等学校平野校舎高校生 オンライン
- 3/29 「フィリピンにルーツを持つ子どもを対象とした母語・継承語教育の実  
態把握と教材開発のための研究」についてのインタビュー  
大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻講師 矢元貴美さん

#### ◇講演等

- 10/28 大阪市教育委員会講座「多文化共生のまちづくり」講師  
多文化共生のまちづくり ～地域で暮らす生活者として外国につながる中高  
生・若者が抱える課題、解決策を考えよう～ [2021年度（令和3年度）]  
[https://www.city.osaka.lg.jp/.../osaka\\_city2022/index.html](https://www.city.osaka.lg.jp/.../osaka_city2022/index.html)
- 11/25 高槻市教育センターでの教職員研修「帰国・渡日児童生徒の学力保障」講師
- 1/21 「2021年度 淀協・ファルマ新入職員多職種研修会西淀川勤労者厚生協会初  
任者研修」講師…西淀川地域で取り組まれている、子ども支援活動について

- 3/21 共生学会設立大会におけるパネルディスカッションパネラーとして参加
- 3/27 外国人家族のための高校進学相談会で「高校入試について」講師  
大阪大学 人間科学未来共生博士課程プログラム 主催  
NPO 法人おおさかこども多文化センター共催

◇連携や支援をいただいた団体

- 西淀川区役所
- 地域こども支援ネットワーク
- 西淀川こどもネット
- 公益財団法人淀川勤労者厚生協会
- 社会医療法人愛仁会千船病院
- 子どもの夢応援ネットワーク

子どもの夢応援ネットワークとは→2016年～「マイノリティ性をもつ子ども・若者の教育や就労を支援する人たちのネットワークづくり」を目的に、地域で活動している団体、個人が集まって結成。それぞれの団体や個人が単独では進められないことや難しいことも、少しずつ課題解決に挑戦している。Facebook <https://ja-jp.facebook.com/kodomonoyume.ouen.nw/>

- Minami こども教室相談役として実行委員会に参加

**西淀川インターナショナルコミュニティー (NIC)**

本 部：大阪市西淀川区福町2丁目3-35 サリサリストア内

URL：<https://nishiyodoic.net> Email：nishiyic@gmail.com

事務局：一般財団法人ダイバーシティ研究所

URL：<https://www.diversityjapan.jp/>